

事業コード	H25-建-継-15		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	一級河川 横手川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	横手市本郷		担当者名	副主幹(兼) 班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	S44 ~ H30 (50年)		総事業費	217.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=6,120m 計画高水流量Q=1,100m ³ /s (1/50)					
事業の立案に至る背景	横手川は、地形的に奥羽山地から横手盆地に出た扇状部に位置するため、S字状に屈曲しながら流下しており、度重なる洪水被害に見舞われてきた。特に、市街地の3分の1が浸水した昭和40年水害は、明治27年洪水を超える規模の洪水となり、床上浸水1,149戸、床下浸水2,955戸の被害に見舞われている。					
事業目的	地域住民の生命と財産を守るため、河積確保や湾曲河道是正等の河川改修を実施して浸水被害の解消を図り、安全で安心できる地域づくりを推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		21,700,000	21,700,000	0	
	経費 内訳	工事費	7,835,000	7,835,000	0	
		用補費	11,301,000	11,301,000	0	
		その他	2,564,000	2,564,000	0	
	財源 内訳	国庫補助	10,850,000	10,850,000	0	
		県債	9,765,000	9,765,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源		1,085,000	1,085,000	0		
事業内容		築堤工 護岸工 排水樋管工	築堤工 護岸工 排水樋管工			
事業の進捗状況	全体計画 217億円 平成24年度末時点投資額 184.17億円 進捗率 84.9%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組み(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	横手川付近のDID面積が拡大し、市街化が進んでいる。横手市中心部の河川改修であるため、用地交渉相手が多数存在し、補償と移転先確保に多大な時間を費やすこととなった。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率=改修延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	45.2 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実績値 b	45.5 %				
達成率 b/a	100.7 %	把握の時期	平成25年 3 月			

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	横手市中心部を流下する河川であり、浸水想定範囲内の人家戸数は4,104戸と非常に多く、災害時の避難場所や保健所、診療所等にも被害が想定される。平成17年度までに上流域の緊急特別対策事業が完成しているが、下流区間の治水安全度が低いため、横手川が一連として目標とする治水安全度を達成できるよう、河川改修を推進する必要がある。	30点
緊 急 性	河幅が狭小で現況流下能力が比較的低く、河道が激しく蛇行を繰り返していることから、豪雨による増水氾濫の危険性が高い。また、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、事業実施の緊急性は高い。	8点
有 効 性	過去に河川改修を実施した区間については、浸水被害の発生が無いなど、災害防止効果が発現していることから、有効性は高い。また、一部の護岸を緩傾斜化するなど、親水性の創出に努めている。	15点
効 率 性	事業の費用対効果は31.70であり、効率性は高い。また、河道計画の見直しによる家屋移転の最小化や、再生骨材の利用及び仮設材の再利用などにより、コスト縮減に努めている。	15点
熟 度	昭和40年7月の横手川氾濫で甚大な被害を経験した市民から、事業の早期完成が望まれている。また、早期に河川環境の復元が可能なブロックの使用や、城下町の景観に配慮した石積み護岸を実施し、河川環境の保全に努めている。	14点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、本事業の評価は高い。	82点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H25-建-継-15)
箇所名 (横手市本郷)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	5	
協議中であるが特段問題ない		3			
策定に着手していないが予定がある		1			
予定無し		0			
計		30	30		
緊急性	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計		15	8		
有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	
地域開発の計画がある		1			
計		15	15		
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計		15	15		
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	進捗率	計画より進捗している	10	3	
		概ね進捗 (90～100%未満)	5		
計画より遅れている (90%未満)		3			
環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	3	システム=秋田県公共事業環境配慮システム	
	システムでの環境配慮事項が1～2事項	3			
	システムでの環境配慮事項がない	0			
計		25	14		
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		